

季刊 まち・コミ

2016年 夏号

● インフォメーション ● <http://park15.wakwak.com/~m-comi/>

たまねぎ、じゃがいも、黒大豆の枝豆(早生)が、今年も順調に育っています。購入による活動支援をしてくださる方を募集中。申し込み方法はチラシをご覧ください。

今月の注目記事 P1 熊本地震活動報告・被災者に寄り添った生活再建支援を

熊本地震活動報告

被災者に寄り添った生活再建支援を

まち・コミュニケーションは、4月19日から熊本地震の被災地を訪問し、支援活動を行っています。その内容をご報告します。

3回にわたり、被災地を訪問

4月19日～22日まで、第1次訪問団として、代表理事の宮定が熊本へ向かいました。南阿蘇村、益城町、熊本市、嘉島町(1)を回り、“被害状況の把握”“救援物資の配布”“現在の生活状況の把握”等を行いました。これまでの活動で蓄積してきた、人の想いに寄り添うノウハウを活かすことで信頼関係を構築し、今後の生活再建に向けて相談にのっています。

訪問先の一つである嘉島町では、4月21日現在(5月4日再訪時も)応急危険度判定がされておらず、家が安全かどうかわからない状態でした。そのため昼間は家にいるものの、夜は不安で眠れず車中泊されている方がたくさんおられました。現場で感じたことは、住宅がつぶれて自宅での生活が不可能である方は避難所にいるが、住宅が残っている



建築士・不動産鑑定士・弁護士・技術士・中小企業診断士・神戸の被災経験者で構成された第2次訪問団

方は避難所から出て自宅に戻っている傾向があることです。

熊本から帰ったその日(4月22日)に、神戸で熊本地震の現地報告会をし、「家へ戻りたいが、余震が続き不安で家の中では寝られず車中泊の人が多。被害住宅の耐震性や補修の相談が必要であること。」を報告しました。急な呼びかけにも関わらず参加者30名以上集まっていて、その中に木構造設計士さんがおられ、「熊本へ同行してもよい」と言ってくださりました。

そこで、第2次訪問(5月1日～6日)は“熊

本地震住宅補修相談ボランティアツアー”として呼びかけ、弁護士、中小企業診断士、不動産鑑定士、技術士、神戸の被災経験者、復興住宅政策の研究者等の先生方が協力してくださり、多いときは16名と共に、2日は益城町・熊本市周辺、3日は南阿蘇村、4日は嘉島町を訪問し、被害建物の現状把握や補修の可否、今後の生活・事業再建等について、希望者11件の相談にのってきました。

そこで感じたことは、残っている家では片付けは進んでいるものの、住宅の耐震性への不安はあまり解消されておらず、第1次訪問時と比べて精神的にはほとんど変化していないことでした。

3回の熊本被災地訪問で 確信した3つのこと

1. 支援活動は

地域住民との信頼感が第一であること

第1次の訪問先の方が、第2次訪問時に、近所にいる人手や相談が必要な人を、紹介してくれました。あるご家庭ではメンバーで屋根のブルーシート張りをを行っている時に、建築士さんが住宅相談にのるために、家に入れていただくこうとすると「家の中はちょっと入らないでほしい」と言われました。専門家とはいえ、外部者が来ることに緊張をされてい

る様子でした。建築士さんも技術士さんも、中小企業診断士さんも、土まみれになりながら、真剣にブルーシートを張りました。帰り際に挨拶をすると「また、住宅の相談にのってもらってもよいですか？」と気持ちの変化を伝えられました。

住宅再建支援をするにはまず、被災者の状況を正確に把握する必要があります。プライバシーにも触れることとなります。そのため信頼関係の構築が必要で、専門家であっても初対面ですぐに相談にのることは難しいのです。

一刻も早い復旧のためには、災害前に一人ひとりが交流（できれば、地域間交流）しておくことが、重要だと感じました。

2. 専門家のアドバイスは

被災者の安心に繋がること

「応急危険度判定」の意味や、その後の「住家被害認定調査」との違い等がわからず、“危険（赤紙）”が、解体しなくてはならないと間違っ て解釈してしまい補修ができないと受け取られています。この度の訪問で、それぞれの被害調査の意味を説明し、どのような補修が考えられるかを分かりやすく説明される専門家の先生方と同行させていただき、一人ひとりに会って正確に伝える必要性を感じました。相談所を設けることも重要ですが、混乱しているときは、相談したいことが明確でな



専門家作戦会議(南阿蘇村)



被災家屋の屋根へブルーシート張り(嘉島町)

いため、相談所に行きにくいのです。そのため、できる限り被災者の元へ出向き、もっと住民と専門家が接する環境づくりが重要であると感じました。

3. 生活再建の課題は多様であるため 多角的なアドバイスが必要であること

今回、建築士、弁護士、中小企業診断士、不動産鑑定士、技術士、神戸の被災経験者や復興住宅政策研究者等、多様な専門家によるチームでの被災者ひとり一人へのアドバイスを行いました。この方法は一つの専門領域だけでは解決できないことが解決できることや、過去の被災経験者から復旧のプロセスの中でやるべきことを聞くことによって、被災者が、情報の必要性や人と人の繋がり大切さ等をイメージしやすくなり、効果的な支援に繋がると感じました。

5月8日に第2回現地報告会を開いたところテレビ局のニュース特集にも取り上げていただきました。今後生活を再建していくにあたって、住宅の補修や再建の問題が重要だと感じられました。

そこで、5月11日から再度熊本入りし、生活再建の相談にのっています。5月、6月、7月と専門家や被災経験者、支援者等と熊本入りする予定です。



建築家による被害住宅相談(熊本市東区)

【熊本地震関連まち・コミからのお知らせ】

6月15日(水)～18日(土)まで、生活再建支援のため、第5次熊本行きを検討しています。

6月19日(日)に御蔵学校「熊本地震から学ぶ 災害への備え」を開催予定です。(本誌5p参照)

認定NPO法人まち・コミュニケーションのフェイスブック(<https://www.facebook.com/machicomi>)で熊本地震での活動を報告しています。東日本大震災の活動も継続しています。

当法人がインターネットサイト上で運営している「被災地のつぶやき」は、5月から、熊本の声をお届けしています。

『子どもがいて避難所生活は大変なので、2日前に家に戻りました。車は家族が仕事で使用していて無いので、物資の調達が大変。知り合いが運んでくれます。飲み水はペットボトルでなんとかありますが、生活用水に困っています』(熊本地震から7日/熊本県益城町/40代女性)等、徐々に、報道が少なくなっている中、毎日一話届けていきたいと思っています。

フェイスブック「被災地のつぶやき」

[https://www.facebook.com/](https://www.facebook.com/hisaichitsubuyaki117311/)

[hisaichitsubuyaki117311/](https://www.facebook.com/hisaichitsubuyaki117311/)

ブログ、ツイッターもあります。「被災地のつぶやき」で検索してください。

被災地のつぶやき

検索

1

嘉島町での様子は、MBS報道局【災害を知る#70 集落の被害】に取材されました。こちらのサイトで見られます。

<https://goo.gl/ivwleA>

東日本も忘れないで！

高台造成地完成 住宅造りの槌音

2016年3月現在、住まいの復興まちづくりの完成率は、高台移転：32%、災害公営住宅：49%です。(1)まだ、恒久的な住まいに入居していない人が、半分以上います。(高台移転、災害公営住宅入居以外の方法で再建している被災者もいます。)

石巻市雄勝町では、高台造成が完成し土地が引き渡された集落が、19地区中11地区であります。その中の一つ雄勝町立浜地区の様子を報告します。

立浜地区では、2016年3月に土地が引き渡され、自立再建(自分で家を建設する)が12戸、公営住宅が3戸建設される予定です。現在建設中の住宅があります(写真)。養殖漁師をされている方が多く、公営住宅よりも自立再建が多いのが特徴です。

一番早い家は、7月30日に完成予定。着々と工事が始まっています。

「うちの上棟した家を見においでよ～」と家主さんに誘って頂き、お話を伺いました。「去年子どもが生まれ、子育てが大変です。これまででは30km離れた内陸の仮設住宅から通って養殖をしていましたが、これからは仕事の時間もたくさんとれます。そして何よ

り、子どもとの時間をとれます。子どものためにもしっかり働いてローンを返さないといけません。頑張ります!」。基礎工事が始まった方は「宮定さんの泊まる部屋もつくっているからね～」と。また、建設中の公営住宅に入る方は「まだ基礎工事が始まったばかりだけど、見えてくるともう少しという気になってきた。早く狭い仮設住宅から出たいです。高台に自力で建てられている家を見るのも楽しい。」

祭りの参加者には地区を出られた方もおられ「ここ(立浜)に家を建てたかったが、母の体の調子もあり、5年も待てなかった。」とつぶやく人もいました。

震災前にいた人の約25%(15軒/48軒)しか高台に再建していません。その他の居住者は漁村を離れどうしているのか。転出者の集いにスタッフの宮定が毎年参加させていただき、転出先を訪問し聴き取りをしています。次号で報告します。



住宅建設が進みつつある立浜地区



立浜・北野神社の春の例大祭は菅原道真公を祭る厳粛な祭事で、地域の安全を願っています。震災直後から復興を願い、5年を経た今“地域住民の安全を願う”と、想いも変化しています。

(1)

復興庁 東日本大震災からの復興に向けた道のりと見通し [平成28年3月版]

http://www.reconstruction.go.jp/topics/main-cat1/sub-cat1-1/160315_mitinoritomitoshi.pdf



第37回御蔵学校 開催 「熊本地震から学ぶ災害への備え」

【日時】6月19日(日) 14時～

【内容】

4月14日、16日と連続して起こった熊本地震。現在も余震が続き被災者は、大雨による避難勧告や、車中泊を余儀なくされている。この状況をどう捉えるか。まち・コミによる熊本地震報告のあと、講師から熊本地震の被害等の状況を聞き、今後の地震災害への備えを学ぶ。

情報は、下記をご覧ください。

<https://goo.gl/wh361Z>

東日本5年目「被災地のつづやき」 を一緒に聞きませんか？

【日程】8月28日(土)～8月29日(月)

【内容】

宮城県三陸沿岸部(石巻市・女川町・雄勝町等)を回り、東日本大震災5年目の復興(高台移転や漁港等)の状況を見ます。生活再建の状況を語り部の方々からお聞きし、現地の方と交流の場を持ちます。

【定員】10名



【お問い合わせ】 まち・コミュニケーション御蔵事務局
メール m-comi@bj.wakwak.com 電話 078-578-1100

「被災地のつづやき」はまち・コミが運営する、被災地の声を発信するサイトです

被災地のつづやき

検索

大地のつづやき

「熊本地震に思う」

今回の熊本地震をTVのニュースで見聞きして驚いた。母方の実家の跡取りである七歳年少の従兄弟が南阿蘇村の在である。福岡市南区高宮から移って一年しか経っていない。アマチュア無線を趣味とし、街中に高層マンションが林立し入りづらくなつて、南阿蘇の環境を選んだのだ。

さらに、五歳年少で和歌山県新宮出身の友が益城町に移住している。その友人の亡妻の実家が嘉島町である。四十年前になろうか、友人が嘉島町に住む彼女を同僚の結婚式で見初め、私と一緒に神戸から嘉島町の実家へ乗り込み、彼のひととなりをご両親に見て頂き妻に頂きたいと懇願に赴いた。同じ職場の彼は父親が亡くなっていたので、私が父親代わりであり、或る意味仲人の役割も果たした。妻がガンで亡くなったのは数年前である。今思うと無謀なことをやった若気の至りである。

さて被害状況だが、従兄弟宅は南阿蘇には完成して一年余だったので二階建ての家屋、平家の無線小屋も二基ある無線塔の基礎も無傷だった。四日間電気と水道が来なかったと語った。今でも大雨の予報が出る避難勧告が出され、その都度避難すると言う。益城町の友人宅は小規模の新築開墾地で十年前に建ったが、黄色判定で基礎のクラックが判定要因だ。建物自体は一階、二階とも傾きは見られず、ドアや窓の建て付けも不具合はなかった。本人も基礎のクラックは補修して住み続けると言っている。三世代同居であった。惣領橋袂のその場所から惣領神社にかけて、また神社から町役場にかけてそれは軒並み全壊地域になっている。まさに神戸の木造密集地域の再現で、二十一年前が鮮やかに蘇り胸が痛んだ。嘉島町は屋根瓦がずり落ちブルーシートが張られ雨漏りがするし、一階増築部分の隠居部屋が少し引張られ壁が剥落していた。夜は車中泊と言う。阪神・淡路の教訓として耐震補強が叫ばれているのに、この教訓が生かされていないのが悔しい。

株式会社兵庫商會 田中保三

まち・コミ活動報告 3/1～5/11

- 3/3-23【復興支援】東日本行き 4/12-13【地域支援】徳島県由岐町・県南・ 4/28【講師派遣】熊本地震現地報告会 in 宮城にて報告
- 3/9～11【復興支援】5年目の被災地体感ツ 徳島大学訪問(事前防災) 5/1～6【復興支援】熊本行き(住宅補修相談)
- ア- (宮古～女川) 4/14-19【復興支援】東日本行き 5/7【地域交流】出石市民農園(じゃがいもの畝立て)
- 3/12【地域支援】地区防災計画発表会(上釜 4/17-18【研究調査】被災地つばやきツアー (気仙沼) 5/8【勉強会】熊本地震第2回報告会
- 3/15【研修受入】関西国際大学(東南アジア 4/19-22【被災地支援】熊本行き(緊急物資 5/10【講師派遣】豊島区長崎456丁目地区 震災復興まちづくり訓練ガイダンス-体験者の話を聞いて復興を考える-(首都大学 東京古研究室) 講師: 田中保三
- の大学生への防災・減災教育) 配布・安否確認・ニーズ調査)
- 3/25【勉強会】「被災地のつばやき」から分 4/22【震災学習】語り部の集い(女川(宮 4/2【地域交流】出石市民農園(じゃがいも・黒豆植え) 4/22【勉強会】熊本地震第1回報告会 4/25【研修受入】宮城県石巻市にて研究者

ご支援、ありがとうございます。3/1～5/11 (新規・継続) 順不同・敬称略

【正会員】田中貢(大阪府) 中林一樹(神奈川県) 瀧上明(東京都) 藤原恵(広島県) 遠藤勝裕(埼玉県) 【賛助会員】池田寛(香川県) 安藤厚子(高知県) 森昭浩(愛知県) 竹内宏之(大阪府) 西野淑美(東京都) 大久保泰良(兵庫県) 森敏昭(兵庫県) 佃由晃(兵庫県) 荒木正昭(熊本県) 高宮城幸雄(兵庫県) 熊田俊郎(東京都) 大橋良雄(愛知県) 斉藤賢次(兵庫県) 山王直子(東京都) 飯考行(東京都) 野口由輝子(兵庫県) 中林浩(京都府) 竹田彰(北海道) 田仲聡(熊本県) 渋谷光延(兵庫県) 梅淳(宮城県) 株式会社ミック(兵庫県) 池田浩敬(静岡県) 田崎俊彦(兵庫県) 平田隆行(和歌山県) 日下秀一(東京都) 成田千尋(京都府) 福島かずえ(宮城県) 山地久美子(兵庫県) 竹内鉄工所(兵庫県) 【寄付】大牟田智佐子(大阪府) 萩原正五郎(兵庫県) 安藤厚子(高知県) 西野淑美(東京都) 赤松愛子(兵庫県) 藪本和法(兵庫県) 野口由輝子(兵庫県) 國富さとみ(兵庫県) 成田光義(東京都) 川崎恵子(兵庫県) 竹田彰(北海道) 堀井秀知(徳島県) 鈴木有(滋賀県) 角谷陽子(大阪府) 相川康子(兵庫県) 市橋純子(兵庫県) 林錫卿(台湾) 南三陸観光バス株式会社(宮城県) 佐藤正子(宮城県) 越山健治(京都府) 津久井進(兵庫県) 斉藤賢次(兵庫県) 平林英二(兵庫県) 【購読会員】竹内宏之(大阪府) 加藤則子(大阪府) 平山京子(兵庫県) 松山幸子(兵庫県)

【協力】社団法人シャンティ国際ボランティア会(東京都) 株式会社兵庫商会(兵庫県神戸市) 味六亭(宮城県石巻市)

会員募集中!

当団体への**賛助会員年会費**と**ご寄付**は、
 寄付金控除等税の優遇措置の対象です。(正会員と購読会員は含まれません)
 認定NPO法人への寄付者に対する優遇措置です。

さらに活発な活動を行うため、会員を募集し、資金面でのご支援をいただいています。

また、会員は1年更新とさせていただきます。現在会員の方も時期がきましたら、更新をお願いいたします。(期限は「季刊まち・コミ」郵送時の封筒の、宛名ラベルに記載していますので、ご確認ください。)

会員種別

【賛助会員】

当法人の事業を、会員として賛助してくださる方
 年会費：5,000円(学生3,000円) 総会議決権：なし

【正会員】

当法人の目的に賛同し、ご入会くださる方
 年会費：10,000円 総会議決権：あり

入会申込書のご提出をお願いしております。

【購読会員】

当法人発行の「季刊まち・コミ」購読希望の方
 年会費：3,000円 総会議決権：なし

編集後記 熊本地震の被災地支援活動を、4月から始めています。被災された方の声は、サイト「被災地のつばやき」で発信中です。(戸)

お振り込み先

名称 特定非営利活動法人まち・コミュニケーション

【郵便振替】

口座番号 00950-3-42788

【三井住友銀行・長田支店】

普通口座 7669623

ご寄付もよろしくお願いたします

2016年6月1日発行 no.15

編集 / 発行

認定特定非営利活動法人

まち・コミュニケーション

事務所 〒653-0014

兵庫県神戸市長田区御蔵通5-211-4-101(みくら5)

TEL 078-578-1100 / FAX 078-576-7961

東北出張所 〒986-0859

宮城県石巻市大街道西1-14-101 味六亭 相澤様方

e-mail m-comi@bj.wakwak.com

URL http://park15.wakwak.com/~m-comi/

ホームページからバックナンバーをご覧いただけます